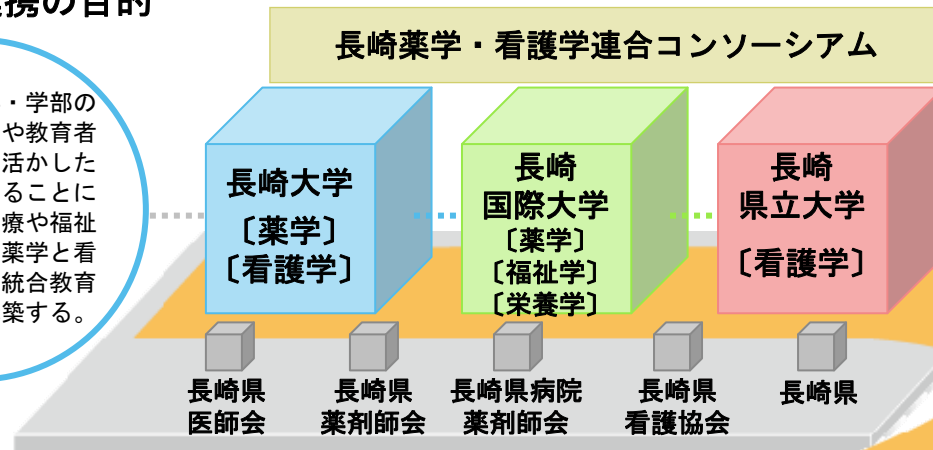


取組名称：在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成
構成大学：長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学

わが国の保健医療分野では在宅医療のニーズが今後益々高まることが予測されており、地域におけるチーム医療体制の整備が急務になっている。そこで、長崎県内で薬剤師と看護職の養成課程を持つ国公立3大学が連携することにより、薬物療法と看護の知力に長け、在宅医療の現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力のオンデマンド型総合実践力を身につけたチーム医療総合職を養成する拠点を形成し、在宅医療や福祉に重点化した薬学と看護学の実践型統合教育システムの構築を目指す。

● **大学間連携の目的**

連携する大学・学部のカリキュラムや教育者資源の利点を活かした取組を展開することにより、在宅医療や福祉に重点化した薬学と看護学の実践型統合教育システムを構築する。



● **連携取組の内容**

大学教育（薬学生・看護学生）

薬学・看護学・福祉学・栄養学の教育を行う。
在宅医療・福祉の合同実習を行う。

→

薬物療法と看護の知力に長けたチーム医療総合職としての薬剤師と看護職を養成する。

生涯学習（薬剤師・看護職）

看護の知力に長けた薬剤師へと再教育する。
薬物療法の知力に長けた看護職へと再教育する。

→

薬学と看護学の最新の知力を共有するチーム医療総合職へと再教育する。



● **期待される効果**

1. 医療チームの構成員である薬剤師と看護職の総合的臨床能力が向上することで、連携地域全域の保健医療分野を支える人材育成を支援できる。
2. 在宅医療の現場において患者が必要としている薬物療法・看護・介護・栄養などの様々なケアを、患者が切れ目のない医療サービスとして受けられる環境を整備できる。
3. チーム医療総合職としての薬剤師・看護職との分業による医療担当者（特に医師）の負担を軽減し医療リスクを低下させることにより、長崎県全域の医療環境の強化に貢献できる。